

七夕祈願祭

と き：令和2年7月7日 19時半～

と ころ：津観音寺

令和2年の七夕祈願祭は開催の予定です



寺社ちょっといい話

■『今こそ神仏・ご先祖様に感謝を』

結城神社 宮司 宮崎吉史



現在、世界各地で新型コロナウイルス(COVID-19)感染症が猛威を奮っております。まずは今回の疫病でお亡くなりになられた方々のご冥福と、感染者の一刻も早い回復をお祈り申し上げますと共に、疫病の早期終息をお祈り申し上げます。

今般の疫病で犠牲者がいる以上楽観視は大敵ですが、我が国の状況は欧米諸国と比較すれば比較的感染被害は抑えられていると思われれます。

なぜ我が国ではある程度感染被害が抑えられているのかはまだまだ専門家でも解らない事であると思いますが、私見では日本人に根付いている生活様式にあるのではないかと思います。

古くから我が国では大祓(おおはらい)といって年2回、「夏越の祓(なごしのはらえ)」を水無月の晦日(6月30日)、「年越の祓(としこしのはらえ)」を師走の大晦日(12月31日)に執り行っておりました。

歴史は大変古く、「古事記」仲哀天皇の段が初見で、

大宝元年(西暦701年)「大宝律令」によって定められました。また、神社だけでなく「解除会(けじょえ)」といってお寺で行っておるところもあり、奈良の東大寺で7月に行われる解除会(けじょえ)は延元元年(西暦901年)から続く穢れ払い(けがれはらい)として有名であります。

大祓とは、日常生活で知らず知らずのうちに犯した罪穢れ(つみけがれ)を払い、天下万民の罪穢を祓うという行事で、さらには天皇即位後の最初の新嘗祭(にいなめさい)である大嘗祭(おおなめさい)の前後や、未曾有の疫病の流行、災害の襲来などでも臨時に執り行います。

夏越の祓(なごしのはらえ)では、衣服を毎日洗濯する習慣や自由に使える水が少なかった時代、半年に一度、雑菌が繁殖し易い夏を前に新しい物に替える事で、残りの半年疫病を予防して健康に過ごすようにする意味があり、旧暦6月晦日頃に梅雨が明け夏本番を迎えますが、この過酷な時期を乗り越えるための戒めでもあったと考えられます。

年越の祓(としこしのはらえ)では、新年に歳神様(としがみさま)を迎えるにあたり、それぞれ心身を清らかにしてお迎えする意味がありました。

このように古来より心身を清める事を年中行事と捉え、清浄を心がけ日常生活を営む生活習慣を我々のご先祖様は築いてきました。

さらには、我が国は稲作を中心とした農耕民族であり、地域が密接に力を合わせて農耕に勤しむため、一旦疫病が流行すればたちまち地域の生活が成り立たなくなってしまうので、手洗いや靴を脱いで家にあがる等の防疫対策をしっかりと行っていたと考えられます。

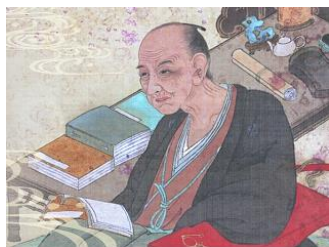
伝統や習慣により現代の我々が守られていると考えると、今がまさにご先祖様や神仏に感謝を捧げる時なのではないでしょうか。

重ねてになりますが、神仏・ご先祖様への感謝と共に、一日も早い感染症被害の終息を心よりお祈り申し上げます。

■塔世山四天王寺「拙堂齋藤先生墓」にお参り
齋藤拙堂顕彰会常務理事 安村久仁男

聖徳太子創建、藤堂高虎ゆかりの寺四天王寺を訪ね、境内南西の小高いところにある齋藤拙堂の墓にお参りした。

齋藤拙堂は1797年江戸柳原の津藩邸で生まれ、1810年江戸幕府の学問所昌平黌(しょうへいこう)に入り、儒学者古賀精里に師事して学問を究めた。1820年3月に10代藩主藤堂高兌



(たかさわ)が私財も投じて藩校有造館を創設し、齋藤拙堂は藩主に請われ24歳で学識(教官)に任ぜられ両親ともに津に遷った。

1822年京都に遊び頼山陽(らいさんよう)を訪ねたおり、山陽は拙堂の文を見るや朋友の礼をもって寓した。藤堂高兌の没後、藤堂高猷(たかゆき)が11代を継ぐと侍読となり、藩主の参勤交代にともなうて隔年江戸に出府し天下の名士と交流した。

その後齋藤拙堂は1844年48歳で有造館第3代督学に就任した。時あたかもペリーが来航して幕末動乱の時期であったが、齋藤拙堂は漢学による士風振興のみならず洋学館を創設して蘭学者を招聘し、さらに門弟を長崎に留学させ、長崎海軍伝習所で蘭学・医学・化学などを学ばせた。

多くの者が教授となり有造館で教鞭をとった。藩校事業の出版事業にも積極的に進め、津藩を「天下の文藩」として世に知らしめた。1855年に江戸幕府から公儀儒官に推され將軍家定の直々の面接を受けたが、津藩への恩義を重んじ辞退した。

1859年拙堂63歳で退職し津城北郊茶臼山の「茶磨山荘」で



隠居生活に入った。この山荘には、拙堂の意見を求め幕末の志士や学者が訪れている。長州の吉田松陰や土佐の吉田東洋、肥後の横井小楠、越後の河井継之助等である。

著作には「士道要論」「拙堂文話」「月瀬記勝」などがある。墓の隣に門弟で写真技術を伝えた「堀江鋏次郎の墓」がある。齋藤拙堂顕彰会の活動は、主に拙堂塾の開催、小中学生の書道展(例年3月初旬)、俳句短歌の募集(例年12月)、吟道大会(例年3月下旬)の開催である。

■感染症物故者追悼・早期終息祈願

令和2年5月6日朝7時、七福神の前にて、僧侶・宮司の方々が願いの言葉を厳かに祈り上げられました。



伊勢の津七福神霊場会
令和二年五月六日七時
新型コロナウイルス感染症
物故者追悼・早期終息祈願

5月6日午前7時
各寺社にて一斉に
追悼・祈願
を厳修致しました

発行：伊勢の津七福神友の会事務局
〒514-0033 津市丸之内 27-16 高山神社内

編集後記：ご意見、原稿お寄せ下さい。
このご時世、七福神巡りをお勧めします。
池上 kanon@nifty.com

伊勢の津七福神 友の会のご案内

伊勢の津七福神が津市に開創して8年目を迎えました。

巡拝の方も5,250名(5月末)を越えました。

今200名の友の会会員の皆様のご協力のもと、この先も歩みを進めて行きたいと思っています。

是非ともこの活動に御賛同くださり、巡拝・感謝の心を育て、町おこしの夢を見てください。

会員の方には年3回、友の会便りが届きます。特典もごぞいます。

会費 : 1,000円/年間 金融機関 : 郵便局

郵便振替口座 : 00820-8-123136 口座名義 : 伊勢の津七福神友の会

《伊勢の津七福神友の会事務局》

〒514-0033 津市丸之内27-16 高山神社内

電話 : 059-225-8558

URL : <http://isenotsu7fukujin>



■伊勢の津七福神 友の会特典 (会員証をお見せください)

- ・うなぎのつたや 059-228-3005 100円引き
- ・榊原館 059-252-0206 日帰り入浴 お茶進呈
- ・谷石材 0595-21-2148 花筒5%引き
- ・はま作 059-228-3088 和菓子サービス
- ・松菱 7階彦兵衛 059-228-6082 ランチ700円以上 コーヒー1杯サービス
- ・都シティ 津内 059-229-2255 日本料理「浜千鳥」食事の際、10%割引
- ・ホテル三徳 059-223-3109 宿泊客にコーヒー一杯サービス
- ・お菓子處とらや本家 059-228-4802 1000円以上お買い上げでポイント5倍押し
- ・マキノ回生堂 059-228-5331 1000円以上お買い上げの方にティッシュひと箱
- ・長谷川印刷 059-228-4465 名刺100枚ご注文の方、一割り引き
- ・飯処しるべ(大門) 059-261-4116 食事の後、ソフトドリンク1杯サービス

満願成就された方への記念の品

満願された寺社様の七福神の水晶玉が入ったストラップを進呈いたします。

7つ集めてみませんか?

作成は安楽寺さま

白 色 : 円光寺 うす紫 : 高山神社 こい紫 : 安楽寺 もも色 : 結城神社

だいだい色 : 初馬寺 うす黄色 : 津観音寺 明るい緑 : 四天王寺

